

令和7年度フロンティア・アドベンチャー 「やまなし少年海洋道中」事業報告

事業概要

今年で36回目を迎えたフロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」は、台風9号の影響を受け、出発を2日遅延して、8月3日から8月9日までの日程で実施することとなりました。八丈島の皆さんのご協力もあり、短縮した日程でも予定していたほとんどのプログラムを実施することができ、参加者にとって充実したものとなりました。

クルージング体験、スノーケリング、八丈島の小中学生との交流、1泊2日で八丈島内を巡るサバイバル踏破など、参加した中学生は、様々な体験活動を通して、多くのことを学び、これまで以上に大きく成長することができました。

出発の日（8月3日）



研修初日、県庁噴水広場に山梨県各地より参加者が集まりました。7月に事前研修会を行ってから約1ヶ月が経過し、久しぶりの仲間との再会、そして、いよいよ親元を離れて旅立つということで、少し緊張した面持ちの参加者もありました。それでも、顔を合わせて話し出すと表情も和らぎ、これからへの期待に、心弾む様子がうかがえました。

未来のリーダーとなるべく各自が大きく成長することを目指し、6泊7日の研修に勇猛果敢に取り組む決意を持ち、バスに乗り込み竹芝桟橋へ向かいました。

竹芝桟橋で行われた出発式では、参加者代表より「夏の暑さに負けない強い心を持ち、心の目を開いて、またとない経験を全て吸収し、社会に貢献できる大きな力を育てていきます！」と宣誓され、初日の良いスタートを切ることができました。出発式を終えた後、乗船を待つ間には、各班や係で打合せを行い、八丈島での生活を想像しながら過ごしました。そして、夜の海に浮かぶ「橘丸」に乗船し、東京湾の綺麗な夜景を甲板から眺め、その後は各自の部屋で就寝しながら八丈島を目指しました。



八丈島到着、開村・交流の日（８月４日）



２日目。約１０時間の船旅。船酔いする参加者・指導者もいましたが、天候にも恵まれ、デッキに出るとキラキラ輝く海が広がっていました。水平線の先に何もなくて、延々と海が続く景色は壮観でした。

八丈島へ到着して下船すると、今年度も八丈町教育委員会（以降、八丈教委）を始めとする八丈町民の皆さんが、横断幕やのぼり旗を持って、温かい笑顔で迎えてくださいました。待合室で少し休憩したあと、朝食を食べ終えると、気持ちの良い空の下を、みんなで垂戸ベースキャンプ地（以降ＢＣ）へ向かい歩きました。



ＢＣ到着時、八丈町の小中学生がアーチを作って待っていました。今年度は２日遅延したこともあり、交流を兼ねて八丈の小中学生もテント設営等に協力してくれました。大学生ボランティアリーダー（以降ＶＬ）の指示を聞きながら、班ごとに割り当てられたエリアに、各班テント２張りと食事用テントを、どの位置に、どんな向きで設置するか等、自分たちの今後の生活を考えて設営していきました。非常に暑い中でしたが、１ヶ月前の事前研修で学んだことを思い出しながら、仲間と協力する姿が見られました。



交流中の昼食は、三根婦人会による八丈郷土料理の麦雑炊や特別に用意していただいた素麺・天ぷらを各班で食べました。八丈島で取れた食材をふんだんに使った料理が、疲れた体に染み渡り、元気を与えてくれました。設営を終えた後は、山梨と八丈の参加者で交流レクを行いました。その後開村式を行い、各班長が、自分たちが八丈島でどんなことを目標に生活していくか、この事業の目標である「友情・奉仕・連帯・開拓・交流」に基づいて、決意表明しました。参加者それぞれが士気を高める時間となりました。



夜は、次の日に控えた本事業最大のプログラム「サバイバル踏破」のパッキングを行いました。自分の荷物に加えて、配布された２日分の食料や調理器具、ブルーシート等を話し合いながら分配しました。本当に必要な物なのか、足りない物はないか、真剣に班員同士で考え、過酷なサバイバル踏破に入念な準備を行いました。バックパックがちぎれそうなくらいパンパンに膨らんだ参加者もありました。

昨年度に引き続き、事前のキャンプ用品の搬入や集会テントの設営、毎日の氷の準備等、各研修活動プログラムへのサポートをしてくださった八丈教委の方々には、本当に多大なる御支援をいただきました。この後の日程が無事終えられたのも、手厚い御支援のお陰です。



サバイバル踏破（8月5、6日）

海洋道中・現地研修のメインイベント、1泊2日の八丈島内巡り「サバイバル踏破」。7月の事前研修会で、各班八丈島の地形や特徴を調べ、それぞれの計画を立てました。出発の時間も朝5時に設定した班が多く、4時台には起床して、八丈島一周に向けて元気よくBCを後にしました。

晴天に恵まれた一方、暑さとの戦いに苦戦する班もありましたが、V.L指導のもと、うまく休憩を挟みながら歩き、ビバーク地へ向けて一歩一歩進んでいきました。予定より遅れる班もありましたが、暑さや足の痛みを乗り越えて、どの班もビバーク地へ辿り着き、各地の温泉で疲れを癒しました。途中、八丈島の住民の方の声援を受け、挫けそうになる心に元気をもらいました。フルーツやアイス、氷などを差し入れてもらった班もあり、ここでも八丈島の皆様の温かさを感じることが出来ました。夜はみんなで夕食を食べ、満天の星空の下で、たくさん話をして、参加者の絆を深めました。



サバイバル踏破2日目。早い班は5時過ぎに出発しました。前日の疲労と体の痛みもありましたが、我が家であるBCへ戻るために、力強く歩みを進めました。体調の悪い仲間を気遣い、励ましたり歌を歌ったり、班で工夫して長い道のりを歩き続けました。荷物が背負えない仲間のバッグを持ち、合計で40kg近くの荷物を背負った参加者もありました。

いよいよ各班の到着。一緒にゴールテープを切る時には、どの班も全員がやりきった笑顔で、出発前より互いの顔を見合っている様子が見られました。先に到着した班が後続の班を拍手で迎える様子も微笑ましかったです。

夕食は、漁協女性部の皆さん提供の八丈島産の材料で作った「手作り弁当（オードブル）」をいただきました。トビウオのすり身揚げ、メジマグロの竜田揚げ、手作りツナの揚げ餃子、ムロアジのメンチカツバーガーなど、どれも美味しく、八丈島の味を満喫できました。八丈教委の皆さんが調理してくれた、海水で茹でたジャガイモも絶品でした。夕食後は、「サバイバル踏破報告会」。



ファイヤーの前で各班それぞれに、感じたこと、印象に残ったこと、大変だったことを話しました。参加者の言葉には、八丈島の方々の優しさに対する感謝の気持ちが溢れていました。仲間と協力して歩いた長い道のり、苦勞を乗り越える達成感、互いを思いやり支え合うことの大切さ、人の優しさの有り難さ、多くのことを感じて過ごした2日間でした。



自主の日（８月７日） 班別自主活動、スノーケリング



過酷なサバイバル踏破の次の日は、事前に自分たちで計画を立てた班別自主活動を行いました。サイクリングで島内を巡り、疲労で余裕がない踏破時には見られなかった景色をゆっくり見た班や、有名なカフェに寄って美味しいソフトクリームを食べる班がありました。黄八丈の機織りに挑戦した班は、昔ながらの機織り機を使って手作りの黄八丈小敷物を編みました。植物園へ行った班は、八丈島に生息する光るキノコや南国特有の植物を見ました。海岸で漂流物や貝殻等を拾って事前に準備した材料でフォトフレームを作成する班もありました。どの班も、それぞれの八丈島を満喫できた半日でした。

午後はスノーケリング体験。今年度も八丈町で活動するフリーダイビングチーム Team BlueArch（ブルーアーチ）の方々に御指導いただきました。事前研修会で、一昨年度ブルーアーチの代表を務めていた方から特別指導を受けました。丁寧な事前指導のおかげもあって、八丈島のきれいな海では参加者たちは気持ちよく泳げました。後半は、より深いところへ行く班と堤防から飛び込む班に分かれて活動し、時間いっぱい八丈島の海を満喫しました。山梨では決して出来ない体験を思う存分に楽しんでいました。



海洋・閉村の日（８月８日）

朝釣り、クルージング、くさや工場見学、さよならレセプション

研修６日目は、島の醍醐味でもある海洋体験の日。

この日は早朝大雨に見舞われ、予定した朝釣りも１時間ほど遅れて実施することになりました。神湊港へ移動し、海釣りを楽しみました。残念ながら、爆釣ということにはならず…、魚を釣り上げることはありませんでしたが、山梨にはない海風を肌で感じながらの釣りは、きっと参加者の心に強く残ったことでしょう。



その後は、漁船のクルージング体験をしました。漁船クルージングはまるでジェットコースターのような衝撃を受けました。海水を体いっぱい浴び、びしょびしょに濡れながら、海の揺れを楽しみました。また、どこまでも続く空と海の青い景色に感動し、広い海を優雅に泳ぐウミガメや船と併走して海上を飛行するトビウオを運良く見られた参加者もいました。

クルージングを終え、次はくさや工場へ向かいました。今年度から海洋道中に協力していただくことになった長田商店さんのくさや工場では、工場内を案内してもらったり、保存してあったくさを試食させてもらったりして、八丈島の特産品について深く学ぶことが出来ました。また、工場内のくさや汁の臭いに衝撃を受けたのもとても良い経験でした。あっという間の八丈での生活も閉村の日を迎え、今までの生活を思い出しながら、BCにお別れをし、閉村することとなりました。

午後は2班ずつに分かれ、八丈町のお土産屋さんで買い物をするふるさとタイムと、ふれあいの湯での入浴タイムを交代で移動しました。BC撤収後のため、夕方からは三根小学校の体育館をお借りして活動しました。小学校に着いた班から、所属校の校長先生へ葉書を書きました。海洋道中で感じたこと、学んだこと、自分にしか書けないことを伝えようと、みんな時間をかけて書き上げていました。

八丈島での最後の夜、現地研修最後のプログラムとなる「さよならレセプション」を行いました。第1部では、「六人会」の皆さんに「八丈太鼓」を披露していただきました。体中に響き渡る迫力ある演奏で、知らず知らずのうちに太鼓の世界に引き込まれていきました。第2部では、班ごとに八丈での思い出を振り返るスタンツ披露があり、どの班も自分たちにとって印象深い瞬間を表現してくれました。



離島の日（8月9日）

7日目。とうとう八丈島とのお別れの日が来ました。最後の夜を過ごした三根小学校では、感謝の気持ちを込めて、早朝に念入りの清掃を行いました。その後、底土港に移動し、離島式を行い、参加者代表が現地研修での思い出や八丈町の方々への感謝の気持ちを伝えました。その後、八丈富士を背景に、最高の仲間たちとともに記念写真を撮り、八丈町の多くの方々に見送られるなか、乗船しました。出航後、見送っていただいた方々と「八丈島」に、いつまでも手を振り続ける姿が、とても印象に残りました。



下船後、最後の班別ミーティングを行いました。仲間やVL、そして指導者、それぞれの思いを受け止め合い、じっくり八丈島での生活を振り返りました。VLとのお別れの時間でもあり、VLと班員の現地研修最後の時間を惜しみながら、話をしました。その後、バスの中で「解団式」を行い、この充実した7日間、参加者・指導者それぞれに互いの成長や変化を感じながら、第36回「やまなし少年海洋道中」の最後を迎えました。

ありがとう、八丈島！

今年度の36回「やまなし少年海洋道中」も、参加者一人ひとりの大きな成長とともに、一生忘れることのできない7日間を過ごすことができました。

現地研修中、いつも近くでサポート体制を整えてくださっていた八丈町教育委員会の皆さんの多大なる協力、さらには八丈町の方々の心温まる優しい言葉に何度も助けられ、勇気づけてもらいました。参加者や指導者が、これまで以上に大きく成長することのできた「八丈島」に感謝しながら、今年度の「でっかい体験」は無事に幕を閉じました。